

## 5・6年生国語科学習指導案

平成17年6月24日(木)第3時限  
高根小学校 5・6年生教室  
下谷 清浩

### 1、単元名

【5年】 詩を味わおう 教材名『晴間』『海雀』『雪』

【6年】 言葉のひびきを味わおう 教材名『短歌・俳句の世界』

### 2、単元の目標

【5年】

文語の調子や言葉の響き・リズムに気をつけて、情景を想像しながら読み、詩の表現の豊かさを味わう。

【6年】

文語の言葉の響き・リズムや優れた表現に目を向けて、短歌・俳句を味わう。

### 3、単元について

【5年】

三編の詩は、それぞれ少しずつ文語表現をもつ。また、文語でないにしても、現代ではほとんど使われなくなった言葉や表現もある。

「晴間」は、五音を連ねた三連から成る詩、「海雀」は繰り返しが音楽のように思われ、また漢字・平仮名の用い方が視覚的効果をもつ詩、「雪」は、無限に想像を巡らす余地のある二行詩、というように、三編はそれぞれに違う特徴をもっている。そのいっぽうで、自然を素材として、それをよく見つけ、心を傾けている静けさ、清澄さを感じられる作品という点で共通している。三編を合わせて学習することで、詩の多様性や奥深さをより一層感じることができる作品である。

口語とだけ付き合ってきた中学年までの子どもたちが、文語と初めて向き合うことになる。不慣れではあるが、未知の世界に臨み、これになじんでいく能力も意欲も、高学年になったこの時期にはもっている。敬遠しそうな傾向も生じるかもしれないが、多少の困難があっても乗り越えた後の喜びを高めるようにすれば、次への意欲はかえって高まると思われる。

【6年】

日本の伝統的な文学ジャンルの中でも、短歌や俳句ほど古くから人々の生活の中に根づき、親しまれてきたものはない。日本文化への関心と理解を深めるとともに、言葉の含意性や象徴性に触れ、言語感覚を養うための教材として、短歌や俳句は最もふさわしいものといえる。

本教材は、短歌と俳句について簡単に説明した文章、季節感や心情あふれる短歌四首と俳句で構成されている。また、短歌・俳句という形式に初めて出会うわけだが、抵抗なく内容を味わうことができるように、理解が難しい言葉には欄外に語注が付してある。短歌や俳句の指導では、言葉の的確さやリズム、あるいは美しさや豊かさを、音読によって感得させることが大切である。

第五学年で初めて文語詩と出会った子どもたちは、とまどいながらも音読などの活動を通して新鮮な感覚を味わってきたに違いない。また、百人一首のかかるたをはじめ、五音七音という日本独特の音やリズムには生活の中で出会っているはずで、子どもたちは楽しんで味わうことができるだろう。

子どもたちには一つ一つの作品の世界が、何に目をとめ何に心を動かされて生み出されたものなのかを考えさせ、味わわせたい。そこに表現された感動は、子どもたちの共感をよぶとともに、時には新たな発見を促すこともあるであろう。また、それを表現している凝縮された言葉のありようは、改めて日本語の美しさや豊かさに目を向けさせるものとなるに違いない。

### 4、高根小学校の研究「少人数学級における学力を高める指導の在り方」との関わり

国語科は、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」という領域をもつ他教科とは違って、国語の力を調和的に育てるために、「A聞くこと・話すこと」「B書くこと」「C読むこと」という三つの領域と言語事項からなっている。

ここで、国語科で求められる学力とは、各領域においての目標を達成するための指導内容と考える。

本単元における国語科の学力とは、「C読むこと」領域の指導内容「ウ登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと」と考える。

研究内容(1) 教師の指導援助のあり方

学習に時間差 ずらしとわたりの教師の出場

つけたい学力—情景描写の読み取る力（基礎基本）

基礎基本としての情景描写の読み取る力をつけさせるためには、言葉に着目した話し合いが必要である。ところが複式授業の場合、2学年同時に学習するため直接指導できない場面が現れる。上記のような国語科の特性から、単元を通して指導計画上でのずらしは困難であり、単位時間内でのずらしを考えなくてはならない。

そこで、本時のように、5年生と6年生の話し合いの場面をずらすことで、それぞれの話し合いに教師が参加し、ねらいに迫れるような焦点化した話し合いを組織できると考えた。

研究内容（2）学習活動の工夫

味わうための音読

つけたい学力—優れた叙述を味わいながら読む力

「味わう」とは、内容を理解するだけでなく、言葉の響き、言葉のリズム、言葉の適正さ、言葉の美しさなどを感じ取って、鑑賞しながら読むようにすることである。

そのためには、繰り返し音読することが大切である。

そこで、単元を通して音読を繰り返し、読み取りと相互に干渉させることでより深く味わえるものとする。

研究内容（3）学習集団の育成

学び方を知る学習集団の育成

つけたい学力—学び方

国語科の場合、領域によって学習の進め方が違い、「読むこと」領域においても、物語的文章の読み取りの授業と説明的文章の読み取りの授業では学習の仕方に違いがある。そういう点において、学習を自分たちで進める際には、算数科などとは違った難しさがあり、いかに子どもたちに見通しを持たせるかが重要になってくる。逆にいえば、子どもたちが自分たちの力で学習を進めることができれば、国語の学び方を身につけてことになる。

昨年度は、単元の学習計画表を作って、子どもたちに単元の見通しを持たせたり、「国語の授業の進め方」をラミネートし下敷きにして、それをもとに授業を進めてきた。また、単位時間の流れは、学習プリントによって学習リーダーを中心に授業を進めてきた。

今年度は、教科書が改訂され、教材の最後にある「学習」がずいぶんよい手引きとなったので、それを活用している。また、学習プリントも有効だが、ノート活用の課題が残っていた。そこで、今年度は授業の流れを板書することで見通しを持たせ、必要なことはノートにまとめることとした。また、学び方を学ばせるために、学期毎に固定していた学習リーダーを輪番制にして、どの子どもも国語の授業の流れを見通せるように指導している。

本時でも、学習リーダーを中心に学習が進められることを期待する。

5、単元の評価規準

【5年】

意欲・関心・態度	読むこと	言語についての知識・理解・技能
◎詩の内容や表現のよさを味わいながら楽しんで読もうとしている。	◎詩の優れた表現を味わい、情景を想像しながら読む。(ウ)	◎文語調の詩を音読し、文語の調子に慣れ親しむ。(エ(ア))

【6年】

意欲・関心・態度	読むこと	言語についての知識・理解・技能
◎文語の調子や、短歌・俳句のリズムを楽しんで音読しながら読み味わおうとしている。	◎短歌・俳句の優れた表現を味わっている。(ウ)	◎短歌や俳句を音読し、文語の調子に親しんでいる。(エ(ア)) ◎短歌や俳句の中の言葉の使い方やリズム、響きに関心を持っている。(ウ(エ))

6、単元指導計画<全5時間>

【5年】

【6年】

時	ねらい	学習活動	評価規準	指導・援助	ねらい	学習活動	評価規準	指導・援助
1	『詩を味わおう』を読み、学習の見通	学習計画を立てよう 1. 三編の詩を読む。 2. 感想を書く。	・自分の感想を持つとともに、それをもとに学習計画を立て	・三編の詩を一編と二編に分けて学	『短歌・俳句の世界』を読み、学習の	学習計画を立てよう 1. 『短歌・俳句の世界』を読	・自分の感想を持つとともに、それをもとに	・短歌と俳句を分けて学習すると学習しやすい

	しもつ ことが できる。	3、この作品を読んだ感想 をもとに、学習計画を たてる。	ている。	習する と学習 しやす いこと をアド バイス する。	見通し もつこ とがで きる。	む。 2. 感想を書く。 3. この作品を読んだ感想を もとに、学習計画をたて る。	学習計 画を立 ててい る。	ことを アドバ イス する。
2	3編の詩 を読み、 「空 青 み」など の文語 表現の よさに 気づき、 文語のリ ズムを感 じながら 音読する ことが できる。	1、今日の課題を確認 する。  三編の詩について、気 づいたことを発表し合 わう  2、それぞれの詩の文 語の表現と言葉のリ ズムについて、気づ いたことを発表し 合う。 3、三編の詩を視写 する。 4、繰り返し音読する。	・三つの詩の 情景を大ま かに想像し ながら、そ れぞれのよ さや好きな ところを見 つけて読ん でいる。	・どの詩に も、自由に 感想が込め られるよう にB紙に詩 を写したも のを用意す る。	五七五 七七と いう形 式をも つ短歌 の特色 を理解 するこ とがで きる。	1、今日の課題を確認す る。  短歌の特色を知ろう  2、教材文を読み、短歌の 特色を理解する。 3、教科書に載っている短 歌を視写する。 4、繰り返し音読する。	・短歌の特 徴を理解 し、文語 の調子や 五七調の リズムに 関心をも って音読 している。 (観察)	・手拍子 を使って・ 短歌の五 七五七七 のリズム を意識さ せる。
3 本 時	「山の 昼」の繰 り返し や文語 のリズ ムを感 じながら 音読し たり、内 容を音 や明ら さを表 す表現 に着目 して話 すこと で詩の 情景を 想像し ながら 読むこ とがで きる。	1、今日の課題を確認す る。  「晴間」を音読し、情 景を読み取る  2、「晴間」を音読する。 3、一連の情景について 話し合う。 4、二連と三連の情景に ついて話し合う。 5、「晴間」の情景を思 い浮かべながら音読 する。 6、音読したり友だちと 話し合ったりして感 じた詩の感想を書 き、発表する。 7、「詩の情景が思い浮 かんできた」の評価 の観点で自己評価を し、次時の課題を確認 する。	・「山の昼」 を繰り返し と文語を含 んだ一行五 音から生じ るリズムや 言葉の意味 を感じなが ら音読して いる。(音読) ・「詩の表現 に基づいて、音や明 らさの視点 で詩の情景 を想像して いる。(ノート・発言)	・詩の葉 響きや正 さをわか せに読 ませ	五七五 七七の 短歌の リズム を楽し みなが ら音読 したり、 好きな 短歌の 好きな ところ を分か り合っ たりす ること で、選 んだ短 歌を味 わうこ とがで きる。	1、今日の課題を確認する。  好きな短歌を味わおう。  2、P35にある四首の短 歌の中から自分の好 きな短歌を一首選ぶ。 3、選んだ短歌について、好 きな理由や感じたこ となどを発表し合う。 4、文語の調子や五七調の リズムに関心をもって 音読する。 5、音読したり友だちと話 し合ったりして感じた 短歌の感想を書き、発表 する。 6、「五七五七七の短歌の リズムを楽しみ、自分 で選んだ短歌の表現の よさがわかった」の評 価の観点で自己評価を し、次時の課題を確認 する。	・五七五 七七の短 歌のリズ ムや言葉 の響きや 意味を感 じながら 読んでいる か評価す る。(音読) ・選んだ短 歌について、その 理由が表 現と結び つけて自 分なりに 鑑賞して いる。(ノ ート・発 言)	・文語の調 子や短歌 の五七五 七七のリ ズムを味 わわせる ために音 読させる
4	「海雀」 か「雪」 のどち らかの 詩を選 び文語 のリズ ムを感 じながら 音読し たり、詩 の内容を 対句表 現に着 目して 話すこ とで詩 の情景	1、今日の課題を確認 する。  「海雀」か「雪」の情景 を読み取る  2、二つの詩を音読す る。 3、「海雀」を音読し、 海の情景について 想像を広げる。特に 「波ゆりくればゆ りあげて、波ひきゆ けばかげ失する」に ついて話し合う。 4、「雪」を音読し、雪 降る夜の様子につ いて話し合う。特に 音や周りの様子に ついて話し合う。	・文語のリ ズムに気 をつけて 音読して いる。(音 読) ・好きな詩 を選んで 詩の情景 を想像し ている。 (ノート・ 発言)	・詩の葉 響きや正 さをわか せに読 ませ	季語と 五七五 という 形式を もつ俳 句の特 徴を理 解する ことが できる。	1、今日の課題を確認する。  俳句について知ろう  2、教材文を読み、俳句の特 徴を理解する。 3、教科書P35の俳句に ついて、その季語につ いて話し合う。 4、教科書に載っている俳 句を視写する。 5、教科書に載っている俳 句を繰り返し音読する。	・文語の調 子や五七 五のリズ ムを感じ ながら音 読している。 (音読) ・季語と五 七五とい う形式に ついて理 解してい る。(発 言)	・手拍子 を使って・ 五七五の 俳句のリ ズムを意 識させ る。

	想像しながら読むことができる。	5、 それぞれの情景を思い浮かべながら音読する。 6、 音読したり友だちと話し合ったりして感じた詩の感想を書き、発表する。						
5	文語詩の表現の特色をつかみ、文語の調子に親しむとともに、詩の情景を想像しながら読み味わうことができる。	1、 今日の課題を確認する。 <b>気に入った詩を選び、音読発表会をしよう。</b> 2、 三編の中から気に入った詩を選び、音読発表会をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>好きな詩を選んで、文語調の語感やリズムを楽しみながら音読している。(発言・音読)</li> <li>発表する際は、自分の好きな理由を、読み取ってきた表現や情景を根拠に伝えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>詩の葉響のきき適さを味わわせるために音読させる。</li> </ul>	俳句の特徴を理解し、好きな俳句を選んで想像豊かに読み味わうことができる。	1、 今日の課題を確認する。 <b>好きな俳句を選び、音読しよう。</b> 2、 自分の好きな俳句を選び、音読する。 3、 選んだ俳句について、好きな理由や感じたことなどを発表し合う。 4、 文語の調子や五七五のリズムに関心をもって音読する。 5、 音読したり友だちと話し合ったりして感じた俳句の感想を書き、発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>俳句のリズムを楽しんで音読している。(音読)</li> <li>選んだ俳句について、自分なりに鑑賞している。(発言)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文語の調子や短歌の五七五七七のリズムを味わわせるために音読させる</li> </ul>